

長い物語を一生懸命に発表する高木小児童



表現豊かに本の世界へ

町童話発表大会

第39回町童話発表大会が9月6日、高木小学校で行われ、町内6校の代表児童12人が日頃の成果を披露しました。児童は題材に選んだ本を堂々と発表し、素晴らしい表現力で観客を物語の世界へと引き込んでいました。中熊英昭審査委員長は「皆さん素晴らしい発表でした。夢を育てる栄養になる読書、これからたくさんのお本の読んでください」と講評を述べました。審査の結果、藤木みゆさん(御船小3年)と木村朱里さん(小坂小6年)が最優秀賞に選ばれ、町の代表として甲佐町で開かれる郡大会へ出場します。

つながり深まる御船台の夏

御船台団地ふれあい・夏祭り

御船台団地ふれあい・夏祭りが8月27日、同団地下公園で開かれ、団地や地域住民などが参加しました。約120世帯が暮らす同団地の親睦を目的に夏祭り実行委員会(古閑金光会長)が主催して、今年で10回目です。祭りは、子ども会のみこしパレードを皮切りに、じゃんけん大会、ダンス、カラオケなど、子どもからお年寄りまでが楽しめる催しが盛りだくさん。普段は閑静な住宅街には、夜遅くまでにぎやかな声が響いていました。古閑金光会長は、「みんなできつなげて、団地を盛り上げていきたい」と言葉を込めていました。



ビール早飲み大会を見事制したのは消防の佐方勝吉第2分団長

ふるさとは頑張っています

浅の藪ふる里夏祭り

農業と畜産が盛んな田代地区浅の藪で「ふる里夏祭り」が8月14日、グランドゴルフ場で開催されました。お盆に合わせて帰省客との交流を図ろうと浅の藪壮青年部(米田則昭部長)が主催して、今年で10回目です。約90坪の広さに畳が敷きつめられた特設会場には約150人が訪れて満員御礼。ミュージカル、歌謡ショー、袴野太鼓など、多彩なラインナップで古里の夜を楽しみました。近くに暮らす野口信子さんは、「毎年祭りに来ると若返る。懐かしい人と話せることがうれしい」と声を弾ませていました。現在、浅の藪は若者の就農や町外からの定住で53世帯159人が暮らして、人口が増加に転じている数少ない集落です。その背景には、古里を守り続けてきた先代と、若い世代がいつの時代もつながっているからのように思えます。



帰省客と地域住民が古里の夜を満喫した特設会場

人気のヨーヨーつりで糸を垂らす園児と児童



園舎に懐かしいお客さま

上野保育園交流夏祭り

上野保育園(宗心みどり園長、40人)で8月25日、夏祭りが開かれ、今年春に園を巣立った児童10人を招いて交流が行われました。園庭には、さかなつり、くじびき、ポップコーンなどの楽しいコーナーがずらり。園児はお客さまの児童とペアになって、園庭を楽しそうに駆けまわり、笑い声が響いていました。袴野小1年の麻井春陽さん(田代)は、「みんなに会えてうれしかった。ポップコーンはお家に帰って食べる。また保育園へ遊びに行きたい」と、慣れ親しんだ園舎や旧友と、楽しいひとときを過ごしていました。

みんなで楽しくクッキング

子どもクッキング教室

保健センターで夏休み期間の4日間「子どもクッキング教室」が開催され、町内の小学生36人が参加しました。これは食育の一環として、町食生活改善推進員協議会(山下明美代表)が毎年開いています。調理前に、箸の持ち方や歯の健康などのミニ講話を聞いた後、各班に分かれて調理スタート。同会の指導を受けながら、班のメンバーで協力して調理を楽しみました。教室に3回参加した小坂小4年の大道美来さん(豊秋)は「友達と参加した。家でも作れそうなメニューもあって楽しかった」と話していました。



グループのメンバーと協力して調理する児童

安心して語り合える場所へ

がんサロンいきいき茶論開設

がんへの知識や情報交換の場を提供する「みふねがんサロンいきいき茶論」が8月26日、保健センターで開かれました。サロンは、がん患者、家族や支援者が安心して思いを語り合える空間を目的に、みふねがんサロン世話人会(馬場洋一郎代表)が開設。上益城郡内初、県内では15番目です。町や県などの機関を含め約20人が参加して、龍穂美月さんの講演や参加者とのフリートーク座談会があり、真剣に耳を傾けていました。参加した60代男性は、「ほかの人の治療法や生活情報が知りたくて参加した。話すことで気持ちが楽になった」と穏やかな表情を浮かべていました。サロンでは個人情報、話の傾聴、互いの気配りなどを徹底しながら毎月第4金曜日に開催。参加費は無料です。詳しくは世話人会へお尋ねください(☎282-0418)。



県内初のがんサロンを開設した池田勇二代表の講演を聴く参加者